

東京日日新聞

大正十一年三月八日
第十一號
東京日日新聞社

外號

昭和七年一月八日(金曜日)

けふ鹵簿に投弾

聖上陛下は御安泰

不敬朝鮮人直に逮捕(一月八日)

天皇陛下陸軍始觀兵式行幸より還御の御途次鹵簿橋田門外に差蒐らせられたる際警備衛事故發生したるがその概要左の如し

本日午前十一時四十分頃鹵簿町區橋田町警視廳々會前街角に差蒐らせられたる際奉拜者線内より突然鹵簿第一二輛目なる宮内大臣乗用の馬車(御料車の前方約十八間)を目懸けて手投弾様のものを投付けたる者ありたるが同大臣乗用馬車の左後底裏において炸裂し同車體の中央部に彈片による指指大の損害二三ヶ所を與へたるのみにして車體を切らぬ可なり異状なく同十一時五十分無事宮城に還御在らせられたり
犯人は警視廳警視石森勳夫及巡查本田恒義同山下宗平憲兵内田軍曹、河井上等兵等に於て協力之を逮捕し警視廳に引致して目下取調中なるが其の氏名等左の如し

朝鮮京城生れ 淺山昌一事 李 泰 昌

内閣總辭職に決定

事件直後緊急臨時閣議

事件の報知と共に大藏首相は恐惶なく能はず直ちに八日正午宮中に参内し天機事伺の後午後零時卅五分首相官邸に緊急臨時閣議を開き病中の高橋蔵相を除く在京閣僚全部出席し警保局長並に警視總監上りの報告により事件の真相を究めなほ特に山本權兵衛伯の來邸を求めて大正十二年十二月離波事件當時の前例を聴取した後この際政府として採るべき態度につき慎重協議を行つた結果事件の性質にかんがみ政府の責任極めて重大でありとして遂に内閣總辭職をなすことに決し午後四時森警保局長は赤坂表町の私邸に高橋蔵相を訪れ一應の手續を了した

内相等電報を以て辭職

旅行中の中橋内相、前田商相、山本農相は今回の事件勃發の急報に接し直ちに急遽歸京の途に就いたが東京に参りち内閣總辭職と決定したのでそれら電報をもつて首相の手に辭表を提出した

警備上の失態責任處分

警視總監懲戒免官

警保局長は罰俸處分

不敬事件の責任を負ひ長警視總監、大竹警務部長、森岡警保局長、浦川丸の内、田村麹町の兩警察署長は八日それら辭表を提出したが中橋内相は同夜歸京後右の五氏に對し警備上失態の責任を處分するため文官懲戒委員會に付議する筈にて結局警視總監、警務部長、丸の内、麹町兩署長は懲戒免官、警保局長は罰俸の處分を受けることになるやあらう

鈴木侍從長

は八日不敬事件直後宮中に参り天皇陛下に拜謁を仰せ付けられ御見舞を言上して退下したが議會別邸に滞在中であつた牧野内府は同日午後一時四十分品川驛著歸京し直ちに参内御見舞を言上したる後内大臣府に入り、一本宮相、鈴木侍從長、奈良武官長等と會見し種々協議を遂行した